

泪 月 ーoboroー 歌 RUI（柴咲コウ）作詞 前田たかひろ

あかとき うつつ
暁 も待てぬ想い 現 には逢うよしもなく
長き夜に身悶えしは また…恋しや

★ 1
ぬばたまのこの黒髪 月夜に放ち絆となれ
み空行く月の光 さあ、絆となれ

いめ とわ
あやし夢 いざなう永久のほとり
この身引き裂かれし 恋は 疼 うばかり… 嗚呼

おろかに生きてました でもしあわせでした
恋は生きいそぐもの
かくせぬ想いです 月がにじんでいます
眠れぬ泪月

★ 2 さか
悲しげに たなびく雲 星 離り行き月を離れ
★ 3 さだめ
天地の別れし時ゆ 幾たびの運命

★ 4 いも
恋しけば 袖ふる妹のごとく
ただ愛しき詩を… されど遥かかなた… 嗚呼

始まりはどこでしょう 終わりはどこでしょう
どうかとどめを刺して
生まれかわれませんか あなたがいないから
この世はひとり

あなたしかいません 他にはいません
すべて
生命と引き換えても
泣き叫んでいます 気が狂いそうです
かなしいよ泪月

おろかに生きてました でもしあわせでした
恋は生きいそぐもの
かくせぬ想いです 月がにじんでいます
眠れぬ泪月



- ★ 1 「髪、黒、夜」などにかかる枕詞。
- ★ 2 万葉集 巻2・161 持統天皇
「北山の たなびく雲の 青雲の 星離れいき 月を離れて」
(北山にたなびく雲、その青雲が、星を離れてゆき、月からも離れて行って…。)
- ★ 3 万葉集 巻3・317 ↓教科書
- ★ 4 万葉集 巻14・3376
「恋しけば 袖も振らむを 武蔵野の うけらが花の 色に出なゆめ」
(恋しかつたら私のほうから袖でも振りましょう。
でも、あなたは武蔵野のおけらの花のように恋心を表に出したりなんかしないで下さいね。決して。)
- 万葉集 巻1・20、21 ↓プリント

アサシユメ ★⁵ クモノカケハシニ
 (浅き夢 雲の梯)
 トブラウ イニシエ (訪う 古しえ)
 ハルノノベ トビチガフハナハ
 (春の野辺 飛び違ふ花は)
 タユタフ タマシヒ (揺蕩う 魂)

残像と知りつつ心は ^{わずら}煩 う
^{ひとがた}我 人 形に変わり狂乱
 ただ思いを ^{あや}殺めて残り夢 ^く喰らう

千年の愛しい痛みに ^{さまよ}彷徨い
 また ^{おほろ}朧 に消えゆく情愛
 この世の果てまで流る川に身を ^{なぐさ}慰 む

^{あいしょう}哀 傷 ^{りんね}愛 輪廻
 哀愁 愛 転生
 物嘆かし 袖の ^{そで しずく}霽

哀傷 愛 輪廻
 哀愁 愛 迷宮
 長らへば
★⁶ 行方も知らぬ恋の道かな
★ 来ぬひとをまつ夜明け

ハルカソラ トキヘダツヒカリ
 (遙か空 時隔つ光)
 ウキヨハ キノハシ (浮き世は 木の橋)
 カケルカゼ クツホルオモイデ
 (翔る風 頼る思い出)
 ヒトミナ ツレナシ (人皆 つれない)

^{もうそう おうせ}妄 想の逢瀬に ^{ちぎ}重ねる契り
 日々 思ひ立ちあとう信愛
 ただ髪ひとすじまでも花としつらう

^{しょうよう}遺 遥のみにみゆむなし草も
^といつ遂げるとも知れぬ求愛
★⁸ あはれとも言ふべきひとと思ひ浮かばずに

哀傷 愛 輪廻
 哀愁 愛 転生
 物嘆かし 袖の霽
 哀傷 愛 輪廻
 哀愁 愛 迷宮
★⁹ 長らへば
忍ぶることの弱りもぞする
絶えなば絶えね

哀傷 愛 輪廻
 哀愁 愛 転生
 物嘆かし 袖の霽

哀傷 愛 輪廻
 哀愁 愛 迷宮
 長らへば
 行方も知らぬ恋の道かな
 来ぬひとをまつ夜明け

アサシユメ ツキウカルフネニ
 (浅き夢 雲の架け橋)
 イザナフ トコシエ (誘う 永久)



★9↓プリント

★5 新古今和歌集 巻5・秋・下・522 寂蓮法師
 「かささぎの 雲のかけはし 秋暮れて 夜半には霜や さえわたるらむ」
 (カササギが列なつて天の川に渡すという雲の橋――
 秋も終り近くなつた今、夜になれば霜が降りて、すっかり冷え冷えとしているだろうなあ。)

★6 新古今和歌集 巻11・恋1・1071 (百人一首 46) 曾禰好忠
 「由良の門を 渡る舟人 かぢをたえ ゆくへも知らぬ 恋の道かな」
 (由良の海峡を渡つて行く舟人が、櫂をなくしてどうすることもできず、行く先もわからないで漂うように、
 これからの私の恋の行く末もわからないことだ。)

★7 新勅撰集 巻13・恋3・849 (百人一首 97) 藤原定家
 「来ぬ人を まつほの浦の 夕なぎに 焼くや 藻塩の 身もこがれつつ」
 (松帆の浦の夕なぎの時に焼いている藻塩のように、
 私の身は来てはくれない人を想つて、恋い焦がれているのです。)

★8 拾遺集・恋五・950 (百人一首 45) 謙徳公
 「あはれとも いふべき人は 思ほえで 身のいたづらに なりぬべきかな」
 (私のことをあはれだと言つてくれそうな人は、他には誰も思ひ浮かばないまま、
 きつと私はむなしく死んでいくのに違いないのだなあ。)